

----- 大雪山の自然を守り続けて22年 -----
「大雪山国立公園パークボランティア連絡会」の活動

岡花博文（大雪山国立公園パークボランティア連絡会会長）

団体名	大雪山国立公園パークボランティア連絡会		
代表者 (会長)	岡花 博文 旭川市東光21条6丁目 TEL・FAX 0166-33-0793	事務局 (事務局長)	中川 博雅 旭川市神楽岡3条4丁目 TEL/FAX:0166-65-1948
発 足	平成元年4月（1989年）	活動場所	「大雪山国立公園」全域
活動内容	自然保護パトロール、自然解説、登山道・野営地・避難小屋等の整備・清掃等		
会員数 と役員構成	109名（男性78, 女性31） 会長1, 副会長3, 会計長1, 事務局長1, 事務局次長1, 事務局員8, 地区委員4, 会計監査2		

（平成23年2月1日現在）

1. 国立公園パークボランティア「設立の背景」

国立公園パークボランティアの制度は、昭和60年に環境省の自然保護教育活動推進事業によるパークボランティア養成が4地区で行われたのが始まりです。国立公園の保護管理や利用者指導の活動の充実と自然保護の普及啓発の促進を目的として設置されました。我が国には国立公園が29ヶ所あります。国立公園は「すぐれた自然の保護と利用」を目的に国が指定した地域です。

国立公園において、自然観察会等の解説活動や美化清掃、利用施設の簡単な維持修理などの各種活動について、広く国民の参加を求め、一層の活動の充実を図るとともに、自然保護の普及啓発を図ることを目的として、これらの活動に自発的に協力して頂ける方々をパークボランティアとして登録しています。

現在、全国の23国立公園の40地区において、1800名のボランティアが登録され、各地区の特性に応じた活動実施計画に沿ってさまざまな活動を行っています。パークボランティアの募集は各地区の地方環境事務所が行いますが、募集時に開催する研修を受けていただくことなどが登録要件となっています。

なお、パークボランティアの募集は、常時行われているわけではなく、ボランティアの増員が必要な場合や、新たな地区でパークボランティアの活動を開始する場合等に行っています。

2. 本会の理念

以上の趣旨によって、「大雪山国立公園パークボランティア」は1988年（昭和63年）10月に当時の環境庁大雪山国立公園管理官事務所（現環境省北海道地方環境事務所 上川・東川・上士幌 各自然環境保護官事務所）が主体となって全道から公募し、層雲峡温泉にて3日間の養成研修を受けた58名により、1989年（平成元年）4月に「大雪山国立公園層雲峡・旭岳地区ボランティアレンジャー連絡会」として発足。平成4年には「大雪山国立公園東大雪・十勝岳地区ボランティアレンジャー連絡会」も発足し、翌年両者を併

合し「大雪山国立公園ボランティアレンジャー連絡会」と改称。念願の大雪山国立公園全域をカバーすることになり、我が国最大の国立公園にふさわしいボランティア組織（81名）になりました。以来平成6、10、12、16、20年と追加募集を行い現在109名の組織になっています。

我が国最大の国立公園（神奈川県とほぼ同面積）にもかかわらず「環境省のレンジャー」はたったの4名（他に補佐官3名）、なおさら私達の役割と活動が必要です。また、一般の方や観光客・登山者への利用マナーや自然保護などの啓発をはかるために、会員に期待するところは大きいのです。私達の組織は「大雪山の自然景観大好き人間」の集まりでもあります。この貴重な自然をこれ以上傷つけず、いつまでも大切に守り通し、自然のままの姿で後世に継承する義務があります。

3. 年間活動

大雪山国立公園において、保護管理・利用者指導またはこれらの一環として行われる各種活動の一層の充実を図るとともに、自然保護思想の普及啓発を図ることを目的として、これに自発的に協力しているのが私たちの組織です。活動内容は、自然解説、野生動植物の保護管理、調査、公園利用施設の維持補修及び美化清掃活動等をするため、以下の年間活動をしています。

5月に総会（2日目は春山登山研修会）を行い年間活動内容を決定します。

大雪山には天然記念物の高山蝶が4種（北海道にしか棲息してしない）いますが、ウスバキチョウなど大雪山にしか生息しない稀少種もいて絶滅が危惧されています。これらが羽化する6月中旬の高山蝶密猟防止パトロールから活動を開始し、6月下旬および7月初旬、まだまだ多い残雪を踏みしめ、遭難防止も兼ねて最高峰の旭岳やトムラウシ山周辺の登山道・野営地整備（保護ロープ・標識ペンキ・清掃）や避難小屋（無人）の清掃を行います。さらに初雪がくる9月には、保護ロープ撤去と最後の清掃活動にでかけます。特に7月のトムラウシは2泊3日のテント泊山行になります。

冬眠前のひぐまは行動が活発になり危険度が増します。登山者が殺到する9月の紅葉時には、マイカー規制になりシャトルバスが運行します。これらの対応と大雪高原温泉「沼巡りコースのひぐま監視」や「赤岳登山道」のパトロールに参加し、登山者の安全確保に協力しています。

また、シーズン中には会報「大雪山」を発行し、私達の活動を会員他、関係団体・個人にも配布しています。以上5～10月の約5ヶ月が主な活動期間ですが、その間、私たちの指導をしてくれるのが環境省自然保護官（レンジャー）です。これらレンジャーの自然解説や保護・監視活動等のアシスタントもボランティアの重要な役割でもあります。

2,000m級の山並みが続く大雪山系は、緯度の関係で気象などの厳しさは北極圏や本州の3,000m以上に匹敵する高山環境にもかかわらず、過去事故もなく安全で楽しい活動を続けています。会員の平均年齢が約60歳、このボランティア活動が若さと健康の秘訣と自負している会員も多く、それが会の活力にもつながっています。

4. 平成21年度 年間活動実施一覧

行事項目	実施予定日	実施場所等	概要	参加
セイヨウオオマルハナバチ防除活動	5月1日(金)	・土幌町 2	セイヨウオオマルハナバチの防除	2
総 会	5月16日(土) ～17日(日)	・十勝岳温泉「凌雲閣」72 ・春山研修(荒天室内講義)47	1日目:総会 2日目:室内研修	119
春期講習会	6月 6日(土)	・層雲峡VC 47 ・野外研修 35	1日目:室内講義 2日目:野外研修	82
ウチダザリガニ防除活動	6月16日(火) 6月19日(金)	・然別湖 20	ウチダザリガニ防除	20
高山蝶パトロール	6月21日(日)	・赤岳20・美瑛富士10・緑岳8	現地重点パトロール	38
	6月22日(月) ～26日(金)	・赤岳10	現地パトロール週間	10
登山道及び 野営指定地整備	6月28日(日)	・旭岳～間宮岳14 ・十勝岳(上カマツク山)14	ロープ設置清掃活動 看板等の設置	28
	7月10日(金) ～12日(日)	・トムラウシ山南沼野営指定地18 ・ヒサゴ沼避難小屋21	ロープ設置補強 ペンキ塗り鉄杭設置	39
	7月12日(日)	・旭岳裾合平	ロープ鉄杭補強	14
セイヨウオオマルハナバチ防除活動	8月 1日(土)	・旭岳温泉～旭岳姿見園地16	防除活動及び講習会	16
自然公園 クリーンデー	8月 2日(日)	・旭岳温泉14 ・層雲峡温泉10 ・白金温泉 7 ・天人峡温泉 7 ・糠平温泉11	徹底清掃活動 (旭岳温泉のみ悪天で中止)	45
登山道整備及び野 営指定地整備	9月 5日(土) ～6日(日)	・トムラウシ山南沼野営指定地17 ・ヒサゴ沼避難小屋10 ・忠別岳避難小屋)8	ロープ緩め 清掃活動	35
マイカー規制対応	9月11日(金) ～27日(日)	・高原沼めぐりコース54 ・赤岳銀泉台50	巡視及びレクチャー	104
登山道整備	9月26日(土)	・十勝岳16	ロープ緩め清掃活動	16
	9月27日(日)	・旭岳山頂9 ・旭岳裾合平9	ロープ緩め清掃活動	18
植樹祭	10月4日(日)	・然別野営場	野営場の植樹	4
ウチダザリガニ防除活動	10月19日(月) ～21日(水)	・然別湖23	ウチダザリガニ防除	23
冬期研修会	2月20日(土) ～21日(日)	・層雲峡VC43 ・野外研修33	1日目:室内講義 2日目:野外研修	76
スノーモビル パトロール	2月28日(日)	・ノカナン 2 ・愛山溪4 ・ペーパングダム3 ・新得町2	スノーモビル乗入 規制合同パトロール	11
(小 計)				700
その他	年間	・役員会	会員の自主活動	71
一般活動	5月～10月	・自然解説、清掃活動		166
合 計				937

※参加数は会員のみ

5. 年間活動写真集

①総会／5月中旬

1日目を終えて（背景富良野岳独立岩）



2日目「春山研修」

1. 白銀荘コース：三段山山頂



2. 安政火口コース：三段山山頂へ



3. 上富良野岳コース：上富良野岳山頂



4. 望岳台コース：十勝岳避難小屋上部



②高山蝶監視パトロール／6月中旬

1. 赤岳コース：第一雪渓をトラバース



コマクサ平にて



2. 美瑛富士コース：美瑛岳避難小屋清掃を終えて 3. 緑岳コース：白雲岳山頂にて



③登山道整備・清掃活動 ／ 6～9月

1. 旭岳コース：6合目付近と山頂直下の保護ロープ設置／6月下旬



ニセ金庫岩の標識整備／6月下旬



山頂の保護ロープの緩め作業／9月下旬



2. 旭岳裾合平コース：登山道石積作業と保護ロープ撤去／9月下旬



3. 上ホロ～十勝岳コース：鉄杭とロープを背負って 保護ロープ設置／6月下旬



4. トムラウシ山南沼コース：ヘリで降ろした鉄杭等点検と3日目下山の朝／7月上旬



5. トムラウシ山ヒサゴ沼コース：保護ロープ設置と清掃／7月初旬



傾いた標識の補修
化雲平／7月初旬



ヒサゴ沼避難小屋の清掃を終え
下山の朝／9月初旬



6. 忠別岳避難小屋コース：



小屋の清掃を終えて下山
2日目の朝／9月下旬



←小屋の中のゴミ
／7月中旬



小屋の外のゴミ→
／7月中旬

④自然公園クリーンデー／8月（第1日曜日）

1. 旭岳温泉街



2. 層雲峡温泉街



3. 白金温泉街



4. 糠平温泉街



5. 天人峡温泉街



6. 旭岳中岳温泉



⑤マイカー規制期間（紅葉時期）／9月中旬～下旬

1. 大雪高原「ヒグマ情報センター」打合せ



2. 赤岳登山口にてレクチャー



=====

※携帯トイレ啓発普及活動について

「トムラウシ山南沼野営指定地（テント泊）」において、平成11年（毎年7月と9月の2回）より平成14年の7月まで、4年間（12年9月は悪天候で中止）計6回の行事で携帯トイレ用テント（写真参照）と便座を持参し、携帯トイレ啓発普及活動に努めたが、南沼野営地にトイレブースが設置されてからは持参していないが、携帯トイレは持参している。ただ一般登山者に対する啓発普及の取り組みは弱い。



この広大な大雪山系で、携帯トイレブースが他にニペソツ山と旭岳石室にしか無いというのも非常に不便。平成12年より上川、十勝、留萌、宗谷支庁が合同で「山岳環境改善事業」の一環として登山者に携帯トイレの無料配布を3年程行い、登山者の意識も高まったが、その後の運動の取り組みの割には行政が重い腰を上げようとしないのは残念です。



このような状況の中「山のトイレを考える会」の早期からの取り組みに敬意を称します。そして継続は力なりを思い知らされています。



ブース



写真は携帯トイレ用テントと最近の南沼野営地／7月初旬